

# 懇談会における主なご意見について

## 天王寺動物園



# 天王寺動物園にとって望ましい経営形態に関する主なご意見（第3回まで）

## 【動物園の果たすべき基本的機能について】

- 大前提として、公立動物園が果たしていくべき役割・機能をしっかりと踏まえ、それが果たせない又は果たせる担保がない経営形態は採るべきではなく、公立動物園の役割・機能を果たすことのできる経営形態の中から、効果的・効率的に経営を行うことのできる形態を模索すべきである。
- 世界的に希少動物の飼育基準は上がってきており、動物園（特に飼育員）には高い専門性や技術を長期的に維持・確保していくことが求められる。

## 【各経営形態に対する評価等について】

- 全国的にも天王寺動物園クラスの希少動物等を多数有する大規模動物園で、民間企業に指定管理者として運営を委ねている事例はない。過度に民間事業者に期待を抱きすぎると動物種や飼育レベルの維持が担保されないおそれがある。
- 直営の一番弱いところは、企画や営業などサービスの機能。ここは仕組みを変えない限り一定以上の向上は難しい。
- 直営には多くの課題があるが、直営でも改善できるところは改善すべきである。
- 直営の評価が低いのは、大阪市独自の制度の縛りによるところが大きい。
- 評価案によると地方独立行政法人が望ましいように見えるが、先行事例を踏まえて運用上の課題などは事前に排除しておくことが重要である。
- 公益財団法人を非公募で指定管理者として指定している動物園はあるが、当面の運営はうまくいっているように見えても、長期的には施設整備などにおいて、自治体の建設部門と飼育部門が分離することによる課題が考えられる。

## 【動物園の資金調達と運営等について】

- 海外の動物園では、施設整備や保全事業などは自治体の資金ではなく、ファンドレイジングによる寄附やネーミングライツによって資金調達を行っている。動物園は潜在的なファンが多いため、これらを十分活用できる枠組みや体制づくりが肝要である。
- 効率的な動物園運営による適正な受益者負担の観点からも、「天王寺動物園101計画」の目標としても示されている公費負担率50%を維持することは妥当な目標であり、いずれの経営形態を採る場合でも、これを一つの基準とすべきである。

## 【組織と人的資源管理等について】

- 経営形態の議論では、仕組みを変えるだけですべてが解決されるような幻想を抱きがちであるが、最も重要なのは仕組みが変わることによって組織内のスタッフの意識が変わることである。
- 必要な組織・機能を備えることは重要だが、強みはどこかを判別し、メリハリをつけるべきである。

